

特集

地域ケアにつながる 「退院看護サマリー」の書き方

病院から地域へ、という流れが加速しています。病院を退院する時には時間をかけて書いている「退院看護サマリー」ですが、地域の人へ渡しても、残念なことに十分に活用されていないという声があるのです。どうやら病院と地域では、同じ単語でも違うことを指していたり、そもそも必要とする情報が違うということが見えてきました。そこで本特集では、病院と地域の専門職の意見をすりあわせつつ、理想の「退院看護サマリー」用紙を提案していきます。

- ①本特集をしたいと思ったきっかけ◎熊崎恭子（大阪大学大学院）
- ②地域生活を支えるための情報共有とは◎西池絵衣子（天理医療大学）
- ③ケアの継続性につく診療報酬◎高田久美（西伯病院地域連携室・看護師）
- ④退院看護サマリー 送り手と受け手の思っていること座談会◎加藤由香、梅本育子、藤田みゆき
- ⑤理想の用紙の提案
- ⑥西伯病院で退院調整看護師が行っていること◎高田久美（西伯病院地域連携室・看護師）

特別記事

バングラディッシュで突撃訪問看護!?

◎向谷地生良（北海道医療大学）

好評連載

こうすれば退院できるし、暮らせるし。

◎加藤由香（ACTひふみ・看護師）

編集後記

3月24日、医学書院会議室で行われた「オープンダイアローグ」セミナー。精神医療の前提をくつがえす可能性を感じさせる内容に、会場内は異様な熱気に包まれました。だって救急急性期はこれまで薬や拘束が前提だったものが、(斎藤環先生いわく)「極端に言えば、しゃべっていれば治る」場合があるというのですから。／奇しくも9月号の退院看護サマリー特集のために開催した座談会で、救急急性期の勤務経験があるナースがこんな発言をしていたのです。「救急で入院してきた患者さんのなかに、10時間までもいらない“レスパイトケア”、つまり(精神は反応で起きるので)、その人の興奮がやむまで見守るようなケアがあれば、この人は入院という形を取らずにいったのではないかと、というケースがすごく多かった」と。これもきっと同じ話ですよ？／現場のいろんな実感と現実がリンクしていくのを感じます。わくわく。……石川

*予定ですので、著者、内容含め変更になる場合があります。

医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

ウェブマガジン『かんかん!』 <http://www.igs-kankan.com>

精神看護 第17巻第4号 2014年7月15日発行(隔月刊) 発行：(株)医学書院 代表者：金原優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23
Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo ©2014, Printed in Japan 販売部：☎03-3817-5659
「精神看護」編集室：☎03-3817-5769 FAX03-5804-0485 担当：石川・伊藤 E-mail: seikan@igaku-shoin.co.jp
本文・表紙デザイン：高見清史 (view from above) 表紙イラスト：寺村栄次 (SCOS) 印刷・製本：(株)アイワード
1部定価：本体1,200円＋税 2014年年間購読料(税込、送料弊社負担、年間6冊) 7,590円(冊子版)／10,590円(冊子＋電子版／個人)／11,700円(冊子＋電子版／共有)／7,590円(電子版／個人)／8,700円(電子版／共有)

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能権を含む)は(株)医学書院が保有します。本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

SCOPY (株)出版者著作権管理機構 委託出版物

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)出版者著作権管理機構(☎03-3513-6969、FAX03-3513-6979、info@scopy.or.jp)の許諾を得てください。

*「精神看護」は、株式会社医学書院の登録商標です。